

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度 第 1 回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和 6 年 7 月 31 日（水）14：00～15：00
開催場所	丸亀市役所 4 階特別会議室
出席者	（出席委員） 山中雅大（会長）、高濱和則（副会長）、角野幸治、馬場久美子、 藤田雅人、葛上侑加、増田美樹、長尾圭祐、末永涼奈 （欠席委員） 村井花子、草薙めぐみ、武林正樹、森本まり子、谷本英城、光岡浩昌 （敬称略）
議 題	・ 令和 5 年度事業実施状況及び令和 6 年度事業実施予定について
傍聴者	0 人
事務局	（中心市） 丸亀市市長公室長 栗山佳子 丸亀市政策課 課長 真鍋裕章、副課長 藤井慶子、主査 横井俊介 （関係市町） 善通寺市政策課 課長補佐 川崎宜和 多度津町政策観光課 係長 合田顕宏 まんのう町企画政策課 課長 鈴木正俊
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	ただ今から令和 6 年度第 1 回瀬戸内中讃定住自立圏共生ビジョン懇談会を開会いたします。 ここからの進行につきましては、会長から願ひいたします。
山中会長	それでは、私の方で会議を進めさせていただきます。 なお、本日委員総数 15 名中、9 名の出席をいただいておりますので、定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱第 6 条第 2 項の規定に基づき、会議は有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。 本日の議事は、 （1）「令和 5 年度事業実施状況及び令和 6 年度事業実施予定について」です。事務局より説明をお願いします。
藤井	（令和 5 年度事業実施状況及び令和 6 年度事業実施予定について説明）
藤田委員	⑦大学生インターンシップについて、令和 5 年度の参加者が 21 名とありますが、実際香川県の会社に就職した実績など、わかる範囲で教えていただきたいです。
横井	毎年インターンシップ事業参加者の追跡調査を行っており、令和 5 年度の参加者の

	就職はまだこれからになると思われるので、令和4年度のデータになりますが、インターンシップで訪問した企業に就職した方が1名、圏域外の香川県内で就職した方が2名という状況です。引き続き追跡調査を行い、インターンシップ事業が圏域の就職に結びついたかどうかを把握するよう努めてまいります。
山中会長	同じく大学生のインターンシップについて、首都圏及び関西圏等の大学3年生の夏休みに実施しているとありますが、インターンシップ自体はどのような期間で実施しているのでしょうか。今はワンデーどころか遠隔で数時間で済んでしまうようなインターンシップも多くあると思うのと、大学側から期間中に1回か2回はインターンシップをするようにという通達があったので参加したという実績だけでは、なかなか開催者側の狙いや効果に繋がらないように思うので実態はどうか伺いたいと思います。
横井	コロナ禍においては、リモートでのインターンシップという形を一時的には実施しましたが、令和5年度については、全て対面で実施しております。期間としては、1日～2日間ということですが、学生の参加希望日と事業者側の実施希望日との日程のマッチングなども関係していると思います。インターンシップに参加する学生には、交通費の半額を助成するという制度もありますので、積極的に活用していただきたいと考えております。
山中会長	インターンシップについては、その方法などについて問題提起されることもありますが、高校から大学までの長期間で企業と学生が連携をもって相互のメリットを引き出せる中間地点となるようなものがあるといいと思います。交通費の負担や、運営面での課題はあると思いますが、あくまで理想として、そういう取り組みをしてもいいのかなと思いました。
角野委員	学生は、単位取得のためにインターンシップに参加する場合があります、受け入れ側としては、その実態がわからないために、本当にその会社を希望して来ているのか、単位取得のために来ているのか、事前にわかったほうが受け入れ側としても取り組み方が違ってくると思います。結局は、会社側に魅力があればそのまま就職に繋がるということですが、その辺りのニーズをよくすり合わせておかないと、対応の仕方も変わってくると思いました。
山中会長	ぜひ学生の委員のからも忌憚のないご意見いただけますか。
末永委員	四国職業能力開発大学校でもインターンシップをしていて、単位を取得することができます。期間は、土日を含む9日間とか5日間とか企業によって変わってきます。時給はもらってはいけないようになっています。
山中会長	前回は指摘させていただきましたが、大学との連携、いわゆる産官学について、香

	川大学、四国学院大学、四国職業能力開発大学校の３校と協定を結んでいるので、圏域にある四国学院大学や四国職業能力開発大学校との連携をもう少し強化してもいいのではないかと思います、今後の方針についてはいかがでしょうか。
藤井	取組事項にあるのが、大学等との交流、合同研究等の推進のところ、圏域での該当する取組について記載しております。各自治体においても、個別に連携しているものがあると思いますが、例えば丸亀市では、選挙の際に、四国学院大学の学生に学生登録立会人として従事していただいております、他にも例年プロ野球ウエスタンリーグ公式戦の運営補助に携わっていただいております。四国職業能力開発大学校においては、お城のキャッスルロードのイルミネーション展示などを通じて連携しております。
山中会長	ぜひ連携を強めていただけたらと思います。公立系の大学となると、まちや行政と大学が連携しているところは、学生が集まりやすい傾向にあります。行政が大学を誘致し、協力し合うことによって学生数が増えてまちづくりにも貢献していくことが多分にあるので、この瀬戸内中讃定住自立圏への定住や就職の可能性を考えると、圏域内の大学との連携など学生の活躍を自治体自身がPRして打ち出すほうが、活気づくのではないかと思います。
藤田委員	⑬広域観光の推進ということで、こんぴらさんへの道しるべ協議会のイベント開催などありがとうございます。⑭のインバウンド対応にも関係しますが、令和７年度には関西万博や瀬戸芸もあり、今年度の種まきとしての取組などがあれば教えていただきたいです。
横井	令和７年度に、「中讃広域観光博覧会」を企画しております。国内外から香川県にも注目が集まり、インバウンドの需要も大きく拡大すると見込んでおりますので、キャラバン隊を派遣するなど、今後も観光需要の掘り起こしを進めてまいります。
藤田委員	できるだけPRをお願いします。
山中会長	⑧地産地消・地産外商の推進の、６次化産業でプロダクトした製品について、価格帯や販売場所などのプロモーションはどのように展開されたのでしょうか。具体的に講じた策についてお答えいただきたいです。
横井	丸亀市の６次化産業の事業としては、地域商社に業務委託を行い販売しております。県内の商業施設、関西圏、首都圏のほうに販路を持っておりますので、単なるビジネスマッチングだけではなく、その販路に乗せた販売までを行っております。
角野委員	丸亀市独自の施策ということでしょうか。
横井	丸亀市の事業として事業費の計上をしていますが、善通寺市の農場からの依頼によ

	りビジネスマッチングを行うなどの取組も含んでおります。
角野委員	丸亀市以外の事業費がゼロという事業がたくさんある原因について、事業費を計上したら取組の実施状況や結果を公表しないといけなくなってくる点にあるかと思いますが、例えば調査費など何かしらの事業費を計上してはどうかと思います。この取組に限らず事業費ゼロでは何もできないのではないのでしょうか。
横井	資料上では区別がつきにくいですが、実際は、中心市となる丸亀市が主導となり予算を計上し、圏域で事業実施を行っているものもあります。
長尾委員	㊲移住・交流促進事業のワーケーションが何かあまりよく知らないのと、圏域全体での人口の社会増減というのは、丸亀市に移住してきた人数を示しているのでしょうか。
藤井	まず、社会増減については、住民票上の転入者と転出者の差であり、内訳として、昨年度は丸亀市の転入者が増えたことから圏域全体でもプラスに転じました。 ワーケーションについては、コロナ禍でリモートワークが普及したことなどから、地方へ旅行しながらでもインターネットの環境が整っていれば働けるというような働き方の多様化と、その地域の人と関わってもらうことで圏域に興味を持つ人が増えるような、関係人口の増加に繋げるための全国的な動きによる取組です。ワーケーションに興味を持つ人に、候補地として選んでいただけるような動画となっています。
長尾委員	転入者、転出者というのは、YouTube 広告とか各自治体の広告媒体を見て転入してきた方のみ的人数ですか。
藤井	転入者と転出者はあくまで住民票の動きになり、異動の理由や異動元、異動先について全てを把握できていません。
横井	令和 5 年度の社会増減 418 人がワーケーション動画を見て転入した訳ではなく、ワーケーション動画の効果と、実際の社会増減の数字を結びつけるのは難しいと思います。
藤田委員	ワーケーションについて、宣伝も兼ねて、琴平町では地元事業者がワーケーションのための宿泊施設を整えており、安く泊まれて Wi-Fi 環境を充実させ、共有スペースで作業できるような施設があります。また PR 動画を作られる際には参考にさせていただけたらと思います。
山中会長	このワーケーションのモデルとなる動画が、従業員向けなのか企業向けかわからなくて、リモートワークを薦めつつ観光もできるような動画を作り、YouTube の広告なども個人をターゲットにしているが、ワーケーションという制度を企業自身が設けて

	いないと、結局休日でも働いているということになります。 交流人口や関係人口は大事だと思いますが、マイクロツーリズムのような形で、県内の隣の自治体で、働きながら休みをとりつつ、いい環境の中で仕事もできるのいいのではないかと思います。そうすると、先ほど申したように PR 動画自身は個人に求めるより、企業側にワーケーションの紹介や福利厚生を含めて考えていただくものかと思います。休日と仕事をあまり一緒にはしたくないと思うので、そのあたりの対策などは今後どうしていくのかという疑問があります。
真鍋課長	ワーケーション PR 動画作成時にそういった視点がなかったこともあり、今年度は、動画を基にしたワーケーションのモニターツアーを開催し、その様子をまた PR 動画として発信する予定ですので、企業向けの視点も含めた内容の検討など、ご意見を参考にさせていただきます。
葛上委員	私自身ケアマネジャーをしており、介護職は対面で行うものなので、ワーケーションを推し進められてもそういった働き方は不可能ですが、その辺りについてはどうでしょうか。
真鍋課長	業種によってはワーケーションという働き方ができないものは確かにあると思います。ただ、この中讃地域にも人口がどんどん減っている中で、取組の一つとして関係人口を増加してまちの賑わいの維持や持続可能なまちにしていこうというものですので、ご理解いただければと思います。
山中会長	葛上委員が提案した課題を解決するようなワーケーションができれば画期的で、いわゆる福祉ツーリズムに関連するものだと思います。介護や福祉のケアをする人とされる人同士がケアをしつつもバケーションを楽しめるようなものを率先して作ったという発信ができたなら全国的にも画期的なものです。難しいとは思いますが、圏域で連携しながら打ち出せたらアピールにもなると思います。
真鍋課長	ご意見を参考に、さらに広い視野でワーケーションや関係人口の創出について考えたいと思います。
高濱委員	ワーケーションについては、事務局の説明にもあったように関係人口を増やすための一つの施策で、人口増加につながる直接的なものではないと考えています。 インターンシップに関連して、十数年前から U ターンや地元就職を推し進める手法が議論されていて、全方位から問題点を一つずつ解決しているという経緯があります。例えば、丸亀の取組にはなりますが、丸亀市キッズウィークを設け、毎年 10 月第 3 月曜日は市内の小・中学校などを休みにし、また、働き方改革の一環として保護者にも有給休暇取得を促しています。市内事業所や市がたくさんのイベントを開催するなど、小さいころから市内の企業についても知ってもらう機会として開始しました。また、市内高校生で構成する丸亀ボランティア部が大文化祭を開催するなど、地

	元に住み、住みやすいまちにするためにみんなで考えるような取組をすることで、大人になってもこの地域に残ろうと思ってくれるような努力を行政や企業でも行っています。
真鍋課長	ほかにご意見もないようですので、この議事についてはここまでとさせていただきます。その他についてご意見、連絡事項などありませんか。
馬場委員	ふるさと納税の取組の返礼品に圏域内の特産品や地場産品の使用とあり、少し逸れますが、以前は敬老の日の記念品の中に丸亀市に関係ない地域の商品が入っていました。今は改善されているかわかりませんが、定住自立圏という強みを活かし、圏域内の地域の商品を記念品にすれば、受け取る側も嬉しさが違ってくると思います。
藤井	担当課に確認します。
角野委員	ふるさと納税返礼品についても、成果指標をふるさと納税の獲得件数、金額にしたほうが良いと思います。
真鍋課長	そういった示し方についても検討させていただきます。
山中会長	ほかにご意見等もないようですので、議事としては以上とさせていただきます、本日の会議を終了いたします。お疲れ様でした。
	(会議終了)